

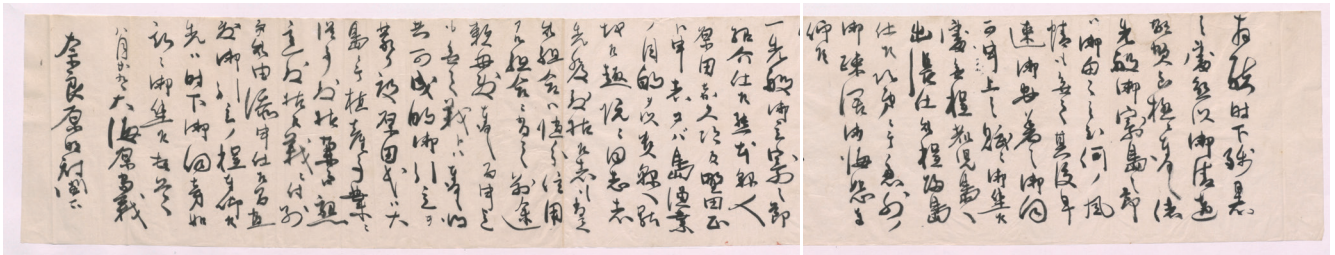
時代区分II (3)-①熊本方面から尖閣諸島への進出を示す資料

尖閣諸島に出漁する漁業者への便宜を求める書簡

おおうみばら

No.15 大海原氏から奈良原知事への書簡

新規掲載 1893年(明治26年)8月29日



所蔵：那覇市歴史博物館

資料概要

1893年(明治26年)8月29日に、大海原尚義(鹿児島県大島島司)が、沖縄県知事である奈良原繁にあてた書簡。熊本方面からの開拓者である、野田正(※1)、原田嘉久次(※2)の紹介状。

沖縄県を訪問する野田、原田両人は、コバ島(尖閣諸島)で漁業を行う目的であること、彼らは「信用アル組合」で、大島島庁でも懇意にしていることを述べ、沖縄県庁でも「御引立」をお願いしたいと記している。

この時期の野田、原田の尖閣諸島への出漁は、『南島探験』『読売新聞』『九州日日新聞』などにも記録されている。

※1 野田正=図南軍指導者(P33参照)

※2 原田嘉久次=図南軍メンバー

内容見本

拝啓時下残暑之處愈以御清適敬賀至極二奉存候、偕先般御察島之節ハ御匆匆之至何ノ風情も無之、其後早速御安着之御伺可申上之賦ニ御座候處、無程鹿児島へ出張仕程帰島仕候次第ニテ慮外ノ御疎濶御悔怨奉仰候

一 先般御立察之節紹介仕候熊本縣人原田嘉久次及野田正申者、コバ島漁業ノ目的ヲ以貴縣へ罷越候趣、既ニ同志者先致居候者も有之、此組合ハ随分信用アル組合ニ有之、前途頼母數奉存候而、申迄も無之義トハ奉存候得共可成的(なるべくさだめて)御引立ヲ蒙り度、原田氏ハ大島ニテ植産事業ニ従事致居、兼々御懇意致居候義ニ付、別(べつ)而(して)此由添申仕候間應(まさ)敷(しく)御引立ノ程奉仰候先ハ時下御伺傍(かたがた)如斯ニ御座候、頓首

八月廿九日 大海原尚義

奈良原明府閣下

現代語訳

拝啓、残暑のこの頃、御無事、御安泰にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。

さて、先般、島の御視察の節は御忙しく、何のおもてなしもしないまま、その後、すぐに無事に御帰りになりましたことのお伺いを申し上げなければならぬところ、ほどなく、鹿児島へ出張を致し帰島致した次第でございます。思いがけなくご挨拶が遅くなりましたことをどうぞお許し下さるようお願い申し上げます。

ひとつ、先般御視察の節、ご紹介申し上げました熊本県人の原田嘉久次と野田正と申す者はコバ島での漁業を目的に貴県へ赴くつもりで居り、すでに同士の者もいて、先発している者もおります。

この者たちの組合は大変信用ある組合で、前途は頼もしき者たちでございますから、申し上げるまでもないことですが、どうぞ、注目してお引き立てくださいますように御願い申し上げます。原田氏は大島で殖産事業に従事しておりまして、かねがね親しくしておりますのでとりわけこの事は御引立て下さるように御願い申し上げます。

まずは、御近況をお伺いかたがた、お願い申し上げます。頓首

八月二十九日 大海原尚義

奈良原明府閣下

作成年月日	1893年(明治26年)8月29日
編著者	大海原尚義
発行者	-
収録誌	書簡 [474_H198] [大海原尚義(大島島司)→ 奈良原繁(沖縄県知事)] (横内家文書)
言語	日本語
媒体種別	紙
公開有無	有
所蔵機関	那覇市歴史博物館
利用方法	那覇市歴史博物館で 利用手続きを行う